

ケアマネと福祉職の有志でつくる勉強会「planet」が札幌市中央区のイベントスペースで開かれた。テーマは「看取りの住まいの現状とACP(人生会議)」。将来の医療やケアの在り方について生前に家族、関係者と話し合い意思を表明しておくACPについて、看護師、医師、介護士が実践内容を講演した。

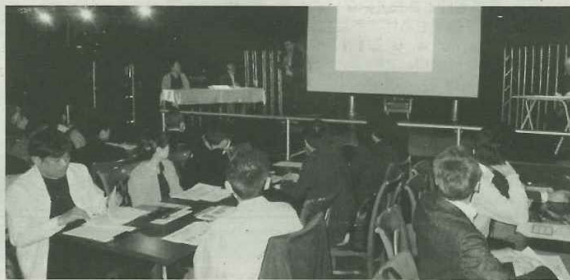
＝札幌＝

「灯」あかり・訪問看護、住宅型有料老人ホーム・看病付き宿舎などは「ちがる」を運営するナースエナジー代表の亀井紗織氏。常を営み、暮らしに療は豊かなものになる」と力を込め、「時代は患者満足度から、患者経験価値へと移行しつつある。患者の経験や生き方を知ることが、本

(看護師、ケアマネ)は、ケアを通して多くの人を心から支えるAC訪問看護勤務時代に、入居者が経口摂取できずPではないかと語った。療養依存度の高い退院で、心身両面まで回復するまで回した。

きない人、長期療養病
院や特養でのルール下
で個別的ニーズを満た
せないなどの課題に直
に手当てを受けて個人
で入居者の生命力を活
性化させるケアを重視
していると紹介。大切
なことは、田格氏（医
師）はＡＣＰについて、本人が
社会医療法人恵和会
西岡病院内科部長の澤
田格氏（医師）はＡＣＰ
実施について、本人が

面。重度の病氣、障害があっても普通の日から、人生の締めくくりに自身の治療などへの考え方を①話す②残す③伝える④見直す——を繰り返すサイクルになる



専門職がACPへ理解を深めた

と解説。認知看護師と共有しているなど、意思」と説明するなど、同表明が難しい病院でのACP実践も、身近紹介。▽病状の認識を確かめる▽代理決定者「本人の推定を決定する▽療養や生活の不安・疑問を尋ねて考えること▽療養や生活で大切なこと」にしたいことを尋ねる」といったACPに必か、内容について繰り

胃ろう造設 要な事項も示した。返し見直すことの重要性を挙げた。「意思は変

を拒否する意 札幌総合法律事務所 性を挙げた。「意思は変

向を尊重し、 の福田直之氏(弁護士) わるから、見直しを繰

緩和ケアによ り厚生労働省による意 り返す。かたくなな意

る療養を継続 思決定支援に関係する 思でも、変わらないこ

する70代男性 ガイドラインを示し とを確認するため確認

などの事例も た。自己決定権尊重で を繰り返しほしい」

挙げた。同病院で導入している多職種連携共有システムについて、書いて共有することと、本人、家族だけでなく、病院スタッフや本人の意思、信条、価値観を尊重される」と説明。家族の意思は、約90人が名刺交換するとして、横の連携について、講演後は交流会も開催された。集まった専門職